

## 1人1台端末環境を基盤とした授業改善

玉野市立荘内中学校2年

2024.02.01  
岡山県教育委員会  
教育情報化推進室ICTを効果的に活用しつつ、学びの主導権を適切に委ねる

令和5年12月28日に「義務教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ」が公表されました。その中には「目指すべき義務教育・学校教育の姿及び取組の方向性」が6項目あり、主に1人1台端末環境を基盤とした授業改善に関わる内容については、以下のとおり示されました。

## ④ 生涯学習社会を生き抜く自立した学習者の育成

- 自立した学習者の育成のため自分に合った学び方をしっかり身に付けることが大切。子供たちが強みを生かしながら主体的に学べるよう、多様性を包摂する柔軟な教育課程の編成・実施を進めるための方策の検討も重要
- ICTを効果的に活用しつつ、学びの主導権を適切に委ねることにより、子供たちが自らの学びを「自分事」として捉え、自発的に他者と関わりながら学びを深めていく学習活動を展開
- 学校教育全般において、子供たちが自ら他者と関わりながら積極的に参画し、挑戦する場面を適切に設定

義務教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ（概要） [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/090/toushin/mext\\_00001.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/090/toushin/mext_00001.html)

赤字部分には、岡山県でも授業改善の方針として示している「学びを委ねる」「自分事」というキーワードが盛り込まれています。また、学びを委ねる目的は「自立した学習者」を育成することであり、その手段として「ICTを効果的に活用」し、「自発的に他者と関わりながら学びを深めていく」ことが肝要であることが読み取れます。

1月18日に玉野市立荘内中学校で公開された授業では、上記のような生徒の姿を見取ることができました。タイトルバックの写真は2年生の数学の授業の様子で、ある生徒が自分の考えを複数の生徒に説明していますが、この状況は自分の設定した目標を達成のため、個別で行き詰まった生徒たちが自発的に関わり始めたことで生まれました。

同じ状況の生徒が集まることができる理由は、右の写真のように全員の考えがクラウド環境によってリアルタイムで共有され、必要に応じていつでも「途中参照」が可能になっているからです。このような活用に慣れた生徒は、短時間で多くの情報を処理することができるようになります。1人1台端末を活用していない授業と比較すると、情報活用能力の育成の観点からも大きな違いが現れています。



FigJamを使用して共有

## 学習者主体の学びに至るには

		教科の学び	学び方	個別最適	
↑ 主体のレベル	④ 子どもが自分で理解が深まるような学習の流れを計画して学ぶ		○	○	○
	③ 先生が子供の理解が深まるような学習の流れを示して子どもが（それぞれ）進める		○	○	○
	② 先生が子供の理解が深まるような活動を準備して理解させる		○	△	×
	① 先生がわかりやすく丁寧に教える		○	×	×

presented by Yu Taizan

左のスライドは、鳴門教育大学 泰山裕准教授がリーディングDXスクール事業（荘内小・中）の指導助言において提示されたものです。

授業における児童生徒の主体のレベルを向上させながら、「教科の学び、学び方、個別最適」の目的を達成していく授業イメージを段階的に表したものです。校内の授業改善を推進するに当たり「学びを委ねる」イメージを共有していく際などに、ぜひ参考にしてください。